

令和6年度 授業改善推進プラン（中学校・学年用）

第三中学校 第2学年

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	学年	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う。	100.0%	90.0%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある。	80.0%	68.6%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う。	98.7%	93.6%
	目標の達成	18 普段から「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある。	81.3%	66.9%
		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。	97.3%	90.9%
	他者との協働	121 私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。	93.3%	88.8%
	学力と関係が深い質問	28 テストで間違えた問題は、もう一度やり直している。	47.3%	51.7%
		36 目標に向けて、普段からコツコツ学習している。	48.0%	48.6%
		37 わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。	66.7%	62.5%
観点・領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題			
国語	話す力・聞く力	○全国平均正答率を9.7ポイント上回り、(司会者の議論の進め方を選ぶ)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を10.1ポイント下回り、(田中さんの意見の内容を選ぶ)設問に課題がある。		
	書く力	○全国平均正答率を7.2ポイント上回り、(原稿の構成の工夫について説明したものを選ぶ)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を0.2ポイント下回り、(条件に従って、まとめの中の空欄に入る言葉を書く)設問に課題がある。		
	読む力	○全国平均正答率を6.3ポイント上回り、(文章全体の構成を把握して、適切な接続語を選ぶ)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を1.7ポイント下回り、(登場人物の心情を選ぶ)設問に課題がある。		
	言語についての知識・理解・技能	○全国平均正答率を14.9ポイント上回り、(文の文節の数を選ぶ)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を3.9ポイント下回り、(漢字の書き「月は地球のえいせいである。’)設問に課題がある。		
数学	数と式	○全国平均正答率を0.6ポイント上回り、(ある数より小さい整数の中で最も大きなものを選ぶ)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を14.3ポイント下回り、(正しい文字式を選ぶ)設問に課題がある。		
	図形	○全国平均正答率を9.2ポイント上回り、(回転体の立体の名称について正しいものを選ぶ)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を3.2ポイント下回り、(展開図を組み立ててできる円柱の体積を求める)設問に課題がある。		
	関数	○全国平均正答率を9.3ポイント上回り、(反比例するものを選ぶ)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を18.7ポイント下回り、(反比例の式を求める)設問に課題がある。		
	資料の活用	○全国平均正答率を4.5ポイント上回り、(相対度数を求める)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を0.1ポイント下回り、(特定の階級未満の割合を求める)設問に課題がある。		
英語	聞くこと	○全国平均正答率を5.8ポイント上回り、(英文の必要な情報を聞き取る)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を3.5ポイント下回り、(数など細かい情報を聞き取る)設問に課題がある。		
	読むこと	○全国平均正答率を11.1ポイント上回り、(英文を読み、その要約文に適する語句を選ぶ)設問に成果がある。		
	書くこと	○全国平均正答率を3.4ポイント上回り、(やりとりから質問に合う答えを書く)設問に成果がある。		
2 生徒の実態		3 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組		
【様式2に記載】		【様式2に記載】		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和6年8月末時点で完了している生徒	69.8%	(58人/83人中)
確認テストの実施状況		令和6年8月末時点で完了している生徒	20.5%	(17人/83人中)

令和6年度 学授業改善推進プラン（中学校・教科担任用）

第三中学校 第2学年

国語科	教科担任 湯浅 愛
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果、全ての領域で全国と比べ5ポイント以上を上回る設問が存在している。一方で「話す・聞く」の領域においては10ポイント以上下回っている設問も存在しているため、領域によって大きく力の差がある。 ・普段の授業の取り組みに対しても積極的であり、課題にも意欲的に取り組んでいる。しかし、話し合いや意見交流の際には、実際に発言者や内容に偏りがあるように感じられる。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で話し合いや意見交流を行う際には、必ず「自分の意見・考え」を考える時間を設け、個人→全体への流れを習慣化していく。 ・発言をする・受け止める際には、否定的になるのではなく、様々な考え方や価値観を考える場として設けられていることをその都度生徒と確認する。
社会科	教科担任 河野 伸二郎
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科に対して苦手意識をもつ生徒が多い。 ・基礎・基本が身につけていない生徒もいる。 ・知識や技能を活用して考えたり、説明したりすることが苦手な生徒がいる。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・単元における既習事項とのつながりを意識し、導入時に確認しながら進める。 ・学習のまとめの際に、学習した語句や技能をヒントとして提示することで、社会的事象の特色や自分の考えを記入できるようにする。 ・導入時に、ICT 機器などを活用し、視覚的に節の探求課題や学習課題に疑問をもたせるように工夫する。
数学科	教科担任 岩城 博之
生徒の実態	真面目に授業に取り組んでいる生徒が多く、基礎的・基本的な知識には着が見られるが、技能面では演習不足である生徒が散見される。また、生徒同士での教えあい・学びあい活動等はよく取り組むことができる。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	技能面での力を補うため、生徒の理解度に合わせた演習を取り入れた授業を多く行う。また、習熟度の確認ができるよう、単元毎にテストを行う。さらに、生徒同士での教えあい・学びあえる力のさらなる向上と習熟状況の向上を目指し、教師がただ教えるのではなく、生徒同士で問題解決できる授業を展開する。

理科	教科担任 長友 謙治、堀 和宏
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査では、学級力の支え合う力、社会低実践力の問題解決力や自己成長力が全国の結果より高めに出ている。 ・実験結果からわかることなど、文章で説明するのが苦手である。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合う力、問題解決力、自己成長力をさらに高めるために、教え合い活動などを行っていく。 ・実験の考察や説明問題などの、文章の書き方をパターン化させて、練習を繰り返すことで、書き方を身に着けさせる。
音楽科	教科担任 田中 悦子
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく、積極的に授業に取り組んでいる。歌唱では、協働学習して得た知識を実践しようと努力している。 ・合唱練習では、ICTを活用して、グループ学習を実践している。 ・鑑賞の授業では、知覚したことを文章に書くことは得意ではない。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業では、得た知識を実践するために、適する技能を指導していく。 ・合唱では、毎回注意事項を楽譜に書き込みし、より高い完成度の楽曲を目指す。
美術科	教科担任 大倉 知恵
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに授業に取り組むことができている。 ・お互いにアドバイスすることができるが、一部の生徒は偏りがある。 ・自分が表現したいイメージについて、考えを練っていくことができるようになってきた。 ・作品をより良くするための工夫をする生徒が増えてきた。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材の導入で鑑賞やICTを活用し、考えを広げられるようにする。 ・授業の中での交流を通して、作品をより良くするための方法を考えさせる。 ・作品への考えや、進行状況を確認しながら計画的に進めさせる。

保健体育科	教科担任 安田 裕昭、岡部 彩寧
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に取り組むことができる生徒が多い。 ・自分が得意な種目は一生懸命に取り組む一方、苦手意識のある種目の授業では消極的な姿勢の生徒が一部いる。 ・試行錯誤をしながら、自身の課題を克服していくことは苦手な生徒が多い。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別の学習機会を作り、運動が苦手な生徒の底上げと、得意な生徒の力をさらに高めることを同時進行させる。 ・教師が練習方法を提示する場面と、自分で練習方法を考えさせる場面とをバランスよく行い、後者の割合を徐々に増やしていく。
技術科	教科担任 久保田 翔子
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に積極的に取り組む。とくに製作作業においては、与えられた資料等を活用し、自分なりに思考を重ねたり、他者と協働したりして、楽しそうに取り組んでいる。 ・集中してインプットし、失敗を恐れずに挑戦できる生徒が多い。積極的に質問もできるため、トライアンドエラーを繰り返しながら基礎技能を定着できている。 ・アウトプットにおいては課題がみられる。作業時や、講義を受けた後のレポート、作業を終えてのレポートなどで、学習したことを発揮・まとめることを苦手とする生徒が多い。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をイメージでとらえられるように、写真や動画での説明を主とする。 ・学習用 iPad を活用し、カラー写真資料や動画配信を行い、生徒が自分の手元で何度でも既習事項を確認できるようにする。 ・グループ編成を工夫する。他者と協働しながら作業を進められるように、製作品が同じ者同士でグループを編成する。 ・毎時間の振り返りや單元ごとのレポート作成の時間を十分に確保する。 ・達成感や充実感をもたせるため、明確で全員が達成できるような目標を設定する。
家庭科	教科担任 瀬尾 裕美
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に取り組んでいる。 ・実習では、意欲的に製作に取り組んでいる生徒が多い。ただ、全体の説明では理解できず、個別に説明が必要な生徒もいる。 ・作業の早い生徒が、まだできていない生徒に教えていることもよくあり、とても良い雰囲気です。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を持って学習する意欲につなげられるよう、指導内容を工夫する。 ・説明が分かりやすくなるように、見本や図も取り入れて工夫する。分からない生徒は、少人数で説明をしたり、個別で対応していく。また、お互いに教えあうことも続けていけるようにする。 ・製作においては、生徒の創造力、想像力、思考力を発展させられるようにする。 ・毎時間の振り返りシートで、各自の進捗や、次回の課題が分かるようにする。

英語科	教科担任 小林 真央 岩尾 京子 山内 正治
生徒の実態	<p>[聞くこと] 英文を聞いて内容を理解できる生徒が多い。</p> <p>[読むこと] 多くの生徒は内容の読み取りができていないが、一部の生徒は語彙力が低く、読めない単語があると行き詰ってしまう生徒もいる(タブレットで調べると意味は分かる)。</p> <p>[話すこと (やり取り)] 英文の正確さは完璧ではないが、ペアでの言語活動にとっても意欲的に取り組むことができる。</p> <p>[話すこと (発表)] 調べた内容を話すことはできているが、英語で話すことに慣れておらず、原稿をずっと見た状態や、英文にカタカナを振った状態で発表する生徒もおり、発表態度の面で課題が残っている。</p> <p>[書くこと] 語彙力が低く、伝えたいことを正しく書くことができていない生徒が多い。また、主語と動詞を含めた完全形の英文で書くことに課題がある。</p>
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<p>[聞くこと] 授業の進度にあわせて副教材を活用する。教科書の Preview や本文動画の活用を通して、字幕なしで見てペアで情報共有することで、聞く力を高める。</p> <p>[読むこと] 新出単語や本文の音読練習を繰り返し行うことで、読む力の定着を図る。</p> <p>[話すこと (やり取り)] ペアワークを多く取り入れて、英語の発話量を増やす。</p> <p>[話すこと (発表)] パフォーマンステストの機会を設け、自分の考えを発表する。クラスメイトの前やALTの前など様々な場面で実施する。</p> <p>[書くこと] センテンスコンテストを実施し、一文を書く力を高める。また、毎單元ごとに書く活動を行い、その内容をALTに添削してもらうことで自分の間違いに気づき、書く力を高めていく。</p>